

H23年度 NGO補助金  
プロジェクト調査事業  
インドネシアの伝統的影絵「ワヤン」  
を活用した啓発活動に関する調査

特定非営利活動法人  
ストップ結核パートナーシップ日本

# インドネシア伝統的影絵「ワヤン」を 活用した啓発活動に関する調査

インドネシアで伝統的影絵「ワヤン」を通じて  
行われた結核の啓発活動に焦点をあてた。



2003年～2005年まで行われた活動について  
現地調査を実施。

期間：2012年1月8～15日

訪問先：ジャカルタ、ソロスラカルタ

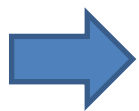
# ワヤンに焦点をあてた理由

ワヤンとは・・・

インドネシアのジャワ島を中心に千年以上の歴史をもつ伝統芸能。ストーリーの題材の多くは、インドの叙情詩「マハーバーラタ」や「ラーマヤナ」などから採られ、ジャワ語で行われる。

ダラン(人形使い、進行役)一人によって、人形の操作やストーリー語り、音楽(ガムランや歌など)の指示を行う。誕生、成人、といった人生の節目や町や村の節句などの場で厄払いや魔よけの意味を持つ。

上演は大きな公園や講演会場のほか、大きな民家などが一般的である。夜9時ごろからはじまり、朝方(従来は4時ごろまで。最近では2時ごろまでが多い)まで行われる。会場のまわりには、食べ物やおもちゃなどの屋台が出て縁日のような賑やかさがあり、地域の大人から子どもまでが集まって楽しむ場となっている。



- 1) インドネシアの文化、生活、思考様式に根付いている。
- 2) ダラン(人形使い、進行役)の人々への影響力が大きい。
- 3) 識字率に影響されない。
- 4) 様々なメッセージを楽しく伝えることができる。

# ワヤンに焦点をあてた理由

## エンターテイメント・エデュケーションE・E

- ・マス・メディア(テレビ、ラジオ、音楽)を通じて娯楽的かつ教育的なメッセージを意図的に 企画し、実施する。
- ・「行動変容を起こす動機づけとして、新しい考えの認識からその考えに対するポジティブな態度の形成を通して、その考えの導入と実践に至る過程を示す。」
- ・視聴者は仲間同士の会話を誘発する媒介的な効果があり、互いが話し合うことを促す。
- ・教育的問題について視聴者の知識を深め、好意的態度の形成、顕著な行動の変化を目的とする。

⇒例)南アフリカ テレビドラマ 「Soul City」(1994～)

母子保健、HIVの感染と予防と管理、HIVおよび結核の予防と完治、住宅と都市改造、アルコール依存症、家庭内暴力など、公衆衛生や社会問題等を含んで作成された。

# 背景：インドネシアの結核の状況と対策

罹患率10万人あたり189人、有病率289人、  
死亡率27人。(世界保健機関:WHO 2011)高まん延国の一つ。

⇒国家結核対策プログラム(National Tuberculosis Program: NTP)の  
もと、National Strategic Plan(2002-6,2006-2010)の戦略を実施。

## 戦略4) 患者教育の改善と地域社会の啓発

- 1.) アドボカシー/啓発活動(Advocacy Communication, Social Mobilization : ACSM)実施する為の人材育成
- 2.) メディアキャンペーンがある。すべての行政区の結核対策チーム(国、州、郡レベル)に対してACSMに係る研修を実施し、アドボカシー活動の為のモジュールやツール開発を行う。世界結核デーだけではなく、年間を通してのキャンペーンの必要性や地域別の言語ごとのキャンペーンツールの作成を計画している。

**インドネシア**:人口:2.38億千万人/首都:ジャカルタ  
**民族**:ジャワ人45%、スンダ人14%、マドゥラ人7.5%、沿岸マレー人7.5%、  
 その他26%(中国系5%)  
**言語**:インドネシア語(地域の言語も使用されている)  
**宗教**:イスラム教が76.5%、キリスト教が13.1%(プロテスタント5.7%、独立教会4.0%、  
 カトリック2.7%、他)ヒンドゥー教3.4%、伝統信仰が2.5%、無宗教が1.9%、その他  
**主要産業**:農業(カカオ、キャッサバ、キャベツ、ココナッツ、米、コーヒー豆、サツマイモ、大豆、  
 タバコ、茶、天然ゴム、トウモロコシ、パイナップル等、鉱業資源(金、スズ、石油、石炭、  
 天然ガス、銅、ニッケルの採掘量が多い。)軽工業、食品工業、織物、石油精製  
 コブラパーム油のほか、化学繊維、パルプ、窒素肥料など



# 過去の事例①

## \* オリジナル「ワヤン」による結核の啓発活動 \*

2003年～2005年、劇団(AKARAWA)の中のメンバーが結核になったことから、知り合いの医師のアドバイスを受けて地域への啓発活動を国立結核プログラム(National Tuberculosis Program: NTP)へ提案。NTPと2003年3月24日の世界結核デーキャンペーンから開始。WHOとともに脚本を作成し、地域の保健所(Puskesmas)や地域ボランティア等と協力をして、約24,000人を対象に結核に関する啓発活動を実施した。

### AKARAWA:

インドネシアで有名な芸術家・詩人W. S. Rendra(1935-2009)が主催する演劇、音楽などを行うアーティストグループ。地域を支援する社会活動なども行っている。





右: 上映前の  
AKARAWAのメンバー



上、右: AKARAWAによる  
ワヤン上映の様子。  
人形はゴミとして捨て  
られてあったプラスチック  
から作られている。



# 過去の事例①

- 実施団体: AKARAWAの4チーム(4~7人で編成)。  
保健省、NTP、WFP、  
ワールドビジョン・インドネシア、 現地NGO、  
コミュニティーの人々。
- 対象地域: ジャワ島(ジャカルタ、ボゴール、タングガラン、  
ブスキ)スマトラ島、カリマンタン島、マルク、北マルク  
※人口、学校が多く、患者発見率が低いところを選定。  
⇒地域の活動では、保健ボランティア(婦人会など)の協力が  
不可欠である。
- 実施場所: ジャカルタ・コンベンションセンター(約20名が実施)、  
学校(中・高校)、Pesantren(イスラム教を教える場所)、  
サンガ: 公民館的な場所、駅裏など。

# 過去の事例①

AKARAWAによる啓発活動のストーリーは20～30分程度で作成され、次の30分で専門家(医師や保健師等)から説明があった。(全体で約1時間)上演の最後には結核に関するパンフレットが配られたり、牛乳や卵、お米(当時のWFPによる結核対策支援)も同時に配られた。

## \* 登場人物 \*

- 1) 屋台の中年女性: イスラム教徒で一般的な庶民の女性
- 2) もと大学生の男性: 大学を退学した学生。のちに地域の人々を助ける。
- 3) 若い女子大学生: セクシーで歌と踊りをやっている。知的な現代的な女性。
- 4) 警察官: スマトラ島から来た下級公務員。ジャワ島へ来た当初は車の修理を行っていたが、制服にあこがれて警察官になる。  
とても人情味のある理想的な人物。

内容: どのように病気が感染するのか、結核の主な症状、健康的な生活習慣、結核の疑いのある人への検査のすすめなど。

- 1) 親から子どもへの遺伝性ではない。
- 2) “のろい”ではない。
- 3) 治る病気である。

# 過去の事例①： ボランティアによる活発な地域の結核啓発活動

## 保健所 Puskesmas

- 平均30000人の対象人口を受け持っている。公立病院よりも安い。全体の2割は有床保健所。出産を取り扱うと同時に緊急の際の産科と新生児ケア、X線検査ができる場所もある。

## 総合保健ポスト Posyandu

- 1984年以降、住民の健康増進のために地域住民主体の参加型施設。幼児や妊婦の定期母子保健や予防接種、栄養指導などを行っている。

## 地域保健 ボランティア

- 保健ポストに平均5人の保健ボランティア(CADER)が保健スタッフと協力し、啓発活動を行っている。CADERの多くが地域婦人会(PKK)に所属している。

# 過去の事例①：啓発活動による効果

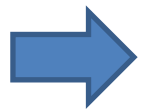
- AKARAWAによる啓発活動が開始されてから、2004年にはAKARAWAの建物の敷地内に保健ポストが設立された。2004年当時は約30人のボランティアが活動を行い、**患者発見率が上昇した**。現在でも保健所から週1回医師の診察があり、検査技師も毎日喀痰を回収するなど連携が続いており、DOTS活動が続けられている。



# 過去の事例②

## \* 伝統的ワヤンを通じた啓発活動 \*

ジャワ諸王国の宮廷で生まれ、15-6世紀ごろには広く普及。マスメディアが発達する前には効果的なメディアとして機能していた。近年では、政治キャンペーンや銀行による偽造紙幣防止キャンペーン、HIV/AIDSや家族計画などのワヤンを通じた啓発活動も行われている。



上演 (PM9:00~AM2:00ごろ) の途中には、商業的要素として、主題とは別の小話「遊び歌」である“リングアン”と“ゴロゴロ”が2回上映される。この時にダラン(人形使い)と啓発テーマに関する専門家が登場し具体的な情報が伝えられ、質問なども行う。

# 過去の事例②

## \* 薬物・HIV/AIDS予防の啓発活動 \*

実施団体：インドネシア・ワヤン協会 (SENAWANGI)、  
インドネシア人道委員会 (KKI)、ストップエイズ運動  
(ASA/USAID)・Land O Lake

期 間：2005年1月から3月

場 所：西ジャワ、中央ジャワ、東ジャワ、ジョグジャカルタ特別州

SENAWANGIによって18人のダランが集められ、ワークショップを開催。薬物・エイズに関する情報を伝え、各ダランによってストーリーが作成された。その後、各ダランのスタイルで「ジェジェラン リムブカン ゴロゴロ」の場面で冗談を交えて伝えることを試みた。



= 啓発の効果 =

観客の薬物やHIV/AIDSについての知識が深まった。





上、右:ワヤンを上映するダラン(人形使い)とワヤンの上演とともに演奏する様子



# 過去の事例:「ワヤン」を通じた 結核啓発活動の効果

## ・オリジナル「ワヤン」の場合

- 1) 伝統的「ワヤン」から自らのスタイルによって人形をつくり、人々に身近なストーリーを作成し、結核の情報を伝わりやすくした。
- 2) ジャワ島などワヤンの文化に根付いていない地域でも受け入れられやすい。
- 3) コミュニティの人々を巻き込み患者発見に貢献した。また、政府保健組織やNGOなどのステークホルダー間の連携が生まれた。

## ・伝統的「ワヤン」の場合

- 1) 地域に根付いている伝統文化であるため、集客力がある。
- 2) 地域の人々に尊敬されているダラン(人形使い)による情報は人々へ影響力が大きい。
- 3) 近年、上演の短縮化や、現代歌謡曲の使用等の演出を試みにより、若い世代の関心を持ってもらえるよう工夫されている。

# 「ワヤン」を通じた 結核啓発活動の効果

過去2つの事例から、「ワヤン」による啓発活動は娯楽として楽しめる一方で、「価値を習得させる効果的なメディア」であり、「道徳的な価値を吸収して参考」にできる、エンターテインメント・エデュケーションとしての要素が含まれているものである。

しかしながら・・・



- ・エンターテインメント・エデュケーションの概念による啓発活動は、結核の知識の増加、行動変容に繋がる可能性が大きい。
- ・活動は一過性で、継続的な結核の啓発活動としての正式なモデルとして残されていない。
- ・「ワヤン」啓発活動のモデル化は、結核に限らず保健システムに効果を及ぼす可能性も考えられる。

# 今後の活動計画

今回の調査結果より、  
STBJでは、H24年度の重点課題として、「インドネシア  
伝統的影絵(ワヤン)を活用した啓発活動」を行う。  
現地カウンターパート(STBインドネシア、  
インドネシア結核予防会、現地NGOなど)を見つけ、  
EEの要素を含んだプログラムを作成し、実施する。

効果的な啓発活動モデルの  
作成を目指します！！